

みどりの風

2026

1

令和8年

今月の表紙「牧野の虹」(撮影：大嶋 俊三 様) 第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



CONTENTS

- 新年のご挨拶
- 令和8年度農業関係予算に係る重点要請を実施
- 「JAグループ基本農政確立全国大会」が開催される

- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 東野ひでき氏コラム
- 農政連総支部だより(上益城)
- 中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

新たな自民党総裁が決定し、首相首班指名選挙で高市早苗氏が第104代総理大臣に就任したのは、10月のことであった。

読売新聞が実施した全国世論調査によると、高市内閣の支持率は71%で、前回の石破内閣の34%を大きく上回った。また内閣発足後の調査としては、歴代5位の高さとなった。

一方、株式市場も高市首相誕生に株価が反応し、4万9,000円台を付け、東南アジア諸国連合(ASEAN)での首脳会議出席後には市場最高値となる5万円台を突破した。高市首相への期待が一層高まっている証でもある。

高市首相は、内閣総理大臣就任からわずか1週間で華々しい外交デビューを果たした。特に米国のトランプ大統領との日米首脳会談では、日米同盟の抑止力、対処力を強化することで一致した。さらに、日を置かずにアジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議にも出席した。

高市早苗首相が所信表明演説で述べたのは、「強い経済の構築へ、責任ある積極財政の考えの下、戦略的に財政出動する」と明言し、物価高対策を最優先に据えた。11月21日に閣議決定した新たな経済対策の規模は21兆3千億円程度となった。その財源の裏付け地なる補正予算案の一般会計歳出は18兆3千億程度で、昨年の補正の約13兆9千億を大きく上回った。

食料安全保障では、農業について、5年間の「農業構造転換集中対策期間」において別枠予算を確保することを明言した。また、最先端技術なども活用し、輸出を促進し、稼げる農林水産業を創り出すことを表明した。

高市内閣は、少数与党下で予算案や法案を成立させるには、野党の協力が不可欠となる。政権基盤が不安定な中、野党と協力関係を構築できるかどうか、今臨時国会の力ギとなる。



新年のご挨拶

謹賀新年

新年、明けましておめでとうございます。

平素より、盟友の皆様には、農政連の活動につきまして特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、先日発表された農林業センサスによると、熊本県の農業従事者は、約3万9千人とこの5年で約1万2千人も減少しており、生産資材の高騰や猛暑を背景に離農・廃業が加速していると報道されました。この報道は、まさに生産現場の現状を象徴するものであり、このような様々な課題に対する手厚い支援は、待ったなしとなっております。

このような中、政府は、改正食料・農業・農村基本法に基づく新たな計画を策定し、食料安全保障の確保を目指して、初動5年間で「農業構造転換集中対策期間」と位置づけ、既存の農林水産予算とは別枠での予算を確保をするとしています。

さらに、長引く生産コストの高止まりについては、著しい価格変動時の農業経営への影響緩和対策や農業生産において必要不可欠な生産資材に対する国内資源の利用・生産拡大等を講じることが求められます。

農畜産物の適正な価格形成の実現に向けては、食料システム法に基づく合理的な費用を考慮した価格形成を推進していく必要があります。

加えて、令和7年8月豪雨は、県内各地において農地等の浸水など甚大な被害が発生しました。このような気候変動に伴う自然災害については、今後も激甚化・頻発化する可能性があることから、農業生産基盤や関連施設の改良など災害に強い農業づくりと、被害状況に応じた迅速な対応を求めていく必要があります。

本連盟としましては、このような農政課題に対し、農業者が将来展望をもって営農継続ができる施策と、その裏付けとなる万全な予算措置の確保に向け引き続き強力な農政運動を展開して参ります。

一方、昨年7月の参議院選挙においては、本連盟が推薦した県選挙区・全国比例区の候補者が見事当選を果たしました。本年は現内閣の高い支持率を背景に衆議院選挙が取りざたされております。

農業者の声を政策に反映するため、一人でも多くの農政議員を国政へ送り出すことが重要となっており、農政連はこれからも皆様との団結と結集力を高め、県下盟友の負託に全力で応えていく所存であります。

盟友の皆様には、今後もより一層のご支援とご協力を賜りますとともに、本年が輝かしい一年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



熊本県農業者政治連盟
委員長 宮本 隆幸



令和8年度農業関係予算に係る重点要請を実施

JAグループ熊本と熊本県農業者政治連盟は、11月11日に東京の衆議院会館・参議院会館において、県選出の国会議員7名（衆議院議員：木原稔、西野太亮、坂本哲志、金子恭之、参議院議員：松村祥史、馬場成志、藤木真也）に対して、令和8年度農業関係予算等に関するJAグループ熊本の重点要請を行いました。

要請を行ったのは、熊本県農政連、JA熊本中央会、JA熊本経済連、JA共済連熊本、JA熊本厚生連、JA熊本果実連、熊本県酪連、熊本県畜産農協の代表者です。

政府は新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定するとともに、初動5年間に「農業構造転換集中対策期間」と位置づけ、施策を集中的に実行するとしています。

生産資材の高止まりが続く中、食料安全保障の確保を図るため、農業関連予算総額の拡大や、共同利用施設の再編集約・合理化に向けた手厚い財政措置等を求めました。また、品目別対策では、水田・畑作、畜産・酪農、園芸・果樹など各分野で農家所得向上に向けた支援策の拡充や十分な予算の確保等を求めました。

JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「農業者が将来に展望を持ち、持続可能な農業経営を確立するため、基本計画の具体化と予算が確保されるよう協力をお願いする」と要請しました。

要請を受けた坂本哲志衆議院議員は、「再編新事業の補助率引き上げなどについては地方財政措置も含めて関係省庁と協議している。生産現場からの各種要請に答えられるよう尽力する」と応えました。

重点要請の内容

1. 食料安全保障の確保と農業関連予算総額の拡大
2. 共同利用施設の再編集約・合理化
3. 適正な価格形成の実現と国民理解の醸成
4. 物流効率化に向けた支援の拡充
5. 自然災害に強い農業づくりに向けた支援
6. 品目別対策



▲坂本哲志衆議院議員(右から5人目)に要請書を手渡すJAグループ熊本の代表者

「JAグループ基本農政確立全国大会」が開催される

農業構造転換集中対策の具体化と万全な予算の確保に向けて

JA全中と全国農業者農政運動組織連盟（全国農政連）は、11月10日に農業構造転換集中対策の具体化や持続可能な水田・畑作農政の確立などについて、与党に要請する「JAグループ基本農政確立全国大会」を東京都内で開催しました。大会には、Web参加者を含め、全国のJAグループ・農政運動組織の代表者、役員、青年部・女性部の約4,000名以上が参加しました。

食料安全保障の重要性が広く認識される中で、食料・農業・農村基本法の改正や新たな基本計画の策定など、食料安全保障の確保に向けた取り組みが大きく前進し始めました。

今後、農業構造転換集中対策の具体化や水田農業政策の見直しなど、重要な政策の確立に向けた大事な局面を迎えている中、新たな経済対策の裏付けとなる万全な予算措置を強く求めました。

主催者挨拶・代表要請で、JA全中の山野徹会長は「農業予算総額の抜本的な拡大は生産現場への前向きなメッセージとなる。共同利用施設の集約・再編集約の引き上げや、手厚い地方財政措置をお願いする。水田政策の見直しでは、中山間など条件不利地への支援拡充を求めると述べました。

農業構造転換集中対策への予算拡大と施設整備負担軽減減勢を強調

要請を受け、自民党の森山裕食料安全保障強化本部長は「構造転換を進めるための予算拡大がはかられるよう取り組む。今後の米政策は生産性向上を

後押しする支援策とそれが難しい中山間地域への支援の拡充が基軸となる」と述べました。

与党政策責任者との意見交換では、自民党の宮下二郎総合農林政策調査会長や江藤拓農業構造転換推進委員長が意見・要望に答えました。

農業構造転換集中対策の具体化に向けた主な重点要請事項

1. 農業関連予算総額の拡大と人件費・物価高騰をふまえた対応
2. 農業構造転換集中対策の具体化等と強力な推進
3. 持続可能な水田・畑作農業対策の早急な確立
4. 農業・農村の持続的な発展に向けた施策の拡充
5. 米国の関税措置に関する日米合意にかかる万全な対応
6. 畜産・酪農、青果、甘味資源作物対策
7. 災害等に強い農業づくり対策



▲代表要請を行うJA全中の山野徹会長

全国農政連推薦・県農政連公認 参議院議員藤木しんやの

永田町でも 百姓宣言

【参議院農林水産委員長を拝命】

10月21日、第219回国会(臨時会)が招集されました。その日の参議院本会議において、参議院農林水産委員長を拜命致しました。参議院議員に初当選してから9年が経過しましたが、参議院常任委員会の委員長に就くのは初めてとなります。11月18日には、委員長就任後、初の委員会が開催され、挨拶させていただきました。

非常に重要な職務であり、あらためて身が引き締まる想いです。日本の農林水産業のため全力で職務を全うして参ります。



▲11月18日・参議院農林水産委員会、委員長として挨拶

【米政策等の議論が活発化】

自民党農業構造転換推進委員会において活発に議論が行われています。本委員会は、今後の水田政策や米の備蓄および流通等のあり方について議論することを主目的に新設された委員会です。9月10日に設置されてから11月27日

までの間で、本委員会5回、現地視察2回、関連役員会13回が開催されており、私は全て出席し、役員会では全てで回で発言しております。今後も積極的に開催されていきますので、尽力して参ります。

【委員会での主な発言概要】

- ・「増産」の言葉が浸透してしまい現場は動揺している。あくまで需要に応じた生産であることの理解促進と戦略作物への転換の重要性を強く示す必要がある。
- ・流通実態把握は、規制改革のやりすぎのツケがきているのだから、国がもつと規律強化したいのであれば、制度全体を締め直さないとダメだ。
- ・備蓄のあり方は、入札備蓄にとどまらず、随意契約備蓄を放出したことで、備蓄制度自体がおかしくなっており、根本的な整理が必要。民間備蓄をするのであれば、民業を圧迫しないような仕組みにする必要がある。
- ・共同利用施設や農業機械導入の支援について、価格高騰が激しく、5割補助でも手が出ない。農協の経営も厳しい。予算を確保しても、このままでは手が届かなくなっていくのを肌感覚で感じる。100%予算執行してもらおう。補助率増加と地方財政措置強化が必要だ。
- ・農水省は、「産地交付金はメリハリつけた単価設定を」と言っているが、そうではなく水田活用交付金を含め全体総額を増やさない現場はどうにもならない。
- ・米の店頭販売価格が上がっても農家手取りは比例していない。便乗値上げの要素も正直感じる。流通段階の精査も必要だ。

全国農政連推薦・県農政連推薦 参議院議員東野ひできの

現場と共に

【参議院農林水産委員会理事を拝命】

10月21日から始まった臨時国会から参議院農林水産委員会に所属することになりましたが、11月18日に開催された委員会において理事に選任していただきました。今後、質疑の機会もいただきます。藤木しんや委員長を先頭に、現場に即した農業政策の実現に向け、現場の声をふまえた建設的な議論が行われるよう、理事として全力を尽くしてまいります。

【地域の介護と福祉を考える参議院議員の会(出席)】

10月22日(水)に開催された「地域の介護と福祉を考える参議院議員の会」に出席しました。

厚生労働省の賃金構造基本統計調査によると、介護職員の賃金は全産業平均と比べて月額8万円程度安くなっており、これまで何度も介護報酬の見直し等を行い、処遇改善をはかってきました。しかしながら、全産業平均に追いついておらず、介護の現場で働く方がどんどん辞めています。JAの介護事業の現場でも同じ課題があります。働く方が誇りをもって働ける環境を作るべく、課題解決に向け取り組んでまいります。

【都市農業研究会(出席)】

11月14日(金)に開催された「自民党都市農業研究会」に出席しました。都市農業対策は、今夏勇退された山田俊男

先生が長年熱心に取り組んでこられたテーマです。

研究会では、JA全中や全国農業会議所などからご説明いただき、意見交換を行いました。私からは「農業分野では食料安全保障という看板を掲げた。都市部の農業は、規模拡大しようとしてもなかなかできないが、農業・食料という観点から国民理解をいただくうえで極めて重要。一番身近にある農業の現場、生きた教育の現場という観点から、都市農業の重要性はますます増していく」と発言いたしました。

都市部に住む住民の皆さんの農業への理解が深まれば、自ずと食料安全保障の確立につながるものと考えております。都市農業振興のため、これからも研究会の一員として取り組んでまいります。



▲都市農業研究会で発言

上益城総支部だより

県下には十一の総支部がありこの活動状況を毎月順次紹介していきます。

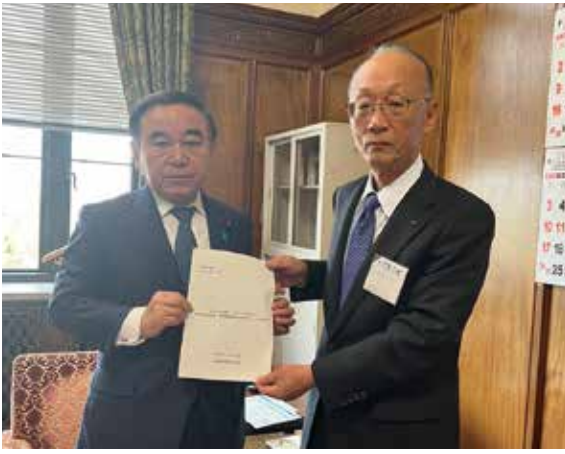
今回は、「農政連上益城総支部」(田原要一総支部長・J.Aかみましき組合長、坂本浩一事務局長・J.Aかみましき営農部長)を紹介します。

上益城総支部は熊本県の東部に位置し、平野部から中山間地までの5町(御船町・甲佐町・嘉島町・益城町・山都町(蘇陽地区を除く))管内で豊かな自然環境と多様な地形を活かし、それぞれが特色ある農業を展開しています。平野部の水田地帯では、水田をフル活用した米・麦・大豆などの穀類。中山間地の高冷地では、冷涼な気候を活かし、夏秋トマトやキャベツ・ピーマンなどの野菜類。益城地区では冬から春にかけて出荷される高糖度・高品質なスイカなど、多品目の農産物が盛んに栽培されています。

●地域農業を守るため

昨年3月、食料・農業・地域政策の進に向けた上益城管内農業の課題を訴えるため、東京都で坂本哲志衆議院議員および藤木眞也参議院議員を訪問

し、要望書を提出しました。田原要一総支部長より「将来にわたり、上益城の農業生産基盤が維持され、組合員が希望を持ち、持続可能な農業の実現には引き続き政策支援が不可欠である」と訴えました。



▲坂本哲志衆議院議員(上)、藤木眞也参議院議員(下)へ要望書を渡す田原要一総支部長

●上益城の水、緑を保全

毎年(年5〜6回)、地域貢献活動の一環と農地・水・環境保全対策のため、J.A職員による本所及び各支所周辺の草刈り・水路等の清掃活動を実施しています。地域の美化活動により、地域住民の快適な暮らしを支える重要な取り組みを担っています。



▲美化活動を行う職員

●政策を学び、地域を動かす

青壮年部・女性部では毎年、藤木眞也参議院議員を招いて農政学習会を開催しています。現場の声を直接届ける貴重な機会として、農業政策の最新動向や

課題について意見交換を行い、地域農業の未来を考える場となっています。若手農業者の政策理解を深め、主体的な活動を促す取り組みとして、地域に根ざした農政への関心を高めています。



▲講演する藤木眞也参議院議員と参加した青壮年部・女性部

「2025くまもと農業フェア」開催

熊本県内の農畜産物が勢ぞろいする「2025くまもと農業フェア」を11月8・9日の両日、合志市の県農業公園（カントリーパーク）で開催しました。県内JAなど農業関係団体が旬の農畜産物を販売したほか、農業高校マルシェや親子で楽しめるおやさいの縁日などが出展し、約1万3千人の来場者で賑わいました。本フェアは熊本県やJAグループなど農業関係団体が構成するくまもと農業フェア実行委員会が主催。

同委員会会長を務めるJA熊本中央会の宮本隆幸会長が「生産者は厳しい環境の中、安全・安心な農畜産物を消費者に届けるために精いっぱい頑張っている。食料安全保障を確立し、食料・農業を未来につないでいくため、農業フェアを通じて食や農業について理解を深めてほしい」と挨拶しました。



▲開会セレモニーでのテープカット



▲女性部による地産地消鍋の販売



▲青壮年部による餅つき実演

会場では、大型パネルの設置やチラシを配布し、来場者に国消国産などの重要性を訴えました。また、JA熊本県女性組織協議会は県産農畜産物を使った手作り「地産地消鍋」を販売。熊本県農協青壮年部協議会では餅つきの実演・販売などで盛り上げました。

JA経済連

第3回熊本県枝肉共進会開催 肉牛の部で(同)清水畜産グラントチャンピオン受賞

JA熊本経済連と熊本県畜産農業協同組合は11月3日から11月7日、菊池市七城町の(株)熊本畜産流通センターで第3回熊本県枝肉共進会を開きました。当共進会は、畜産経営の安定と消費拡大を目的に開催。肉牛の部で(同)清水畜産(菊池市)、肉豚の部で(有)DEAPS(菊池市)がそれぞれグラントチャンピオンを受賞しました。

肉牛104頭(交雑種14頭、褐毛和種21頭、黒毛和種69頭)、肉豚10セット(40頭)の出品があり、(公社)日本食肉格付協会や熊本県の職員などが肉質や色、脂肪交雑などの審査基準に基づき審査しました。(同)清水畜産が出品した黒毛和種(枝肉重量1560.7kg、等級A5、BMSナンバー12、父11茂晴花、祖父11VF)は1キロ1万10円の高値で落札されました。(同)清水畜産の清水敦嗣代表は「受賞できたのも、携わってくださった関係者のおかげ。これからも、この賞に恥じぬよう精進していきたい」と喜びを語りました。

また(有)DEAPSの吉田秀一代表取締役は「消費者のニーズに答えられるような安全で安心なおいしいりんどうポークを育てていきたい」と話しました。



▲グラントチャンピオンを受賞した(同)清水畜産の清水代表(左)と(有)DEAPSの吉田代表取締役

その他の上位入賞者は次のとおり

◆肉豚の部

▽名誉賞2席11菅野義治(大津町)
▽優秀賞11(有)富田ファーム(菊池市)

◆肉牛の部

【交雑種の部】▽名誉賞首席11坂本正信(菊池市)▽優秀賞11大塚晃生(菊池市)

【褐毛和種の部】▽名誉賞首席11日置一誠(西原村)▽名誉賞2席11梅田忠(山都町)▽優秀賞11(株)きもとファーム(大津町)

【黒毛和種の部】▽名誉賞2席11平山茂(あさぎり町)▽名誉賞3席11畑中正明(南関町)▽優秀賞11吉田忍(あさぎり町)、(株)内田畜産(菊池市)、高村重之(山鹿市)、齊藤勝(菊池市)

【脂質賞】守川克浩(菊池市)

【特別賞】グラントチャンピオン賞素牛生産者(株)松永牧場(合志市)

スタントマンによる自転車交通安全教室を開催しました！

JA共済では毎年、『自転車事故のない社会へ』をスローガンに「JA共済自転車交通安全教室」を熊本県警察と共催で開催しています。

今年度は天草拓心高等学校、松橋高等学校、必由館高等学校、鹿本農業高等学校の4校で開催しました。この自転車交通安全教室は中高生を対象に、プロのスタントマンが自転車の危険走行による交通事故を再現し、交通事故の怖さを疑似体験させるというものです。



▲自転車の危険走行を原因とする、車との事故の再現



▲自転車とバイクの衝突事故の再現

スタントマンたちは、自転車の2人乗りや、ながらスマホなどのルール違反の運転により自転車同士が衝突するシーンや、交差点で自転車と車が衝突し、自転車が大きく跳ね飛ばされるシーンなどを再現。すぐ目の前で行われる迫力のあるスタントに、生徒の皆さんも交通事故の恐ろしさを実感している様子でした。再現の後は、どうしていけば事故が起こらずに済んだのか正しいマナーの確認も改めて行われ、それぞれが交通安全についての意識を深める機会となりました。今後JA共済は、県下JA・関係機関のご協力のもと、このような地域に貢献する活動に取り組んでいきます。

農政連

最低賃金が全国平均で1,121円となる

厚生労働省は、都道府県ごとに決める令和7年度の最低賃金の全国加重平均が1,121円になったと発表しました。これは5年連続で引き上げ幅が過去最大となりました。

国の中央最低賃金審議会が示した引き上げ額の平均は64円でしたが、多くの都道府県でこれを上回りました。引き上げ額が最大なのは熊本県で82円の引き上げとなり、次いで隣県の大分県が81円と続きました。

地方の人口流出や物価高が続く中、隣県や都市部との人材獲得競争が要因の一つと見られています。一方で、大幅な引き上げに踏み切る背景には、全国最下位を回避したいという思惑も透けて見えます。

今回の大幅な引き上げは、労働者側から見ると生活の安定につながる一方、使用者側は今後生産性の向上が不可欠となります。

最低賃金の引き上げは、人件費負担に耐えられず、採用を手控える動きにも結び付きかねません。

トランプ関税に目を向けても中小企業は経営が一層厳しさを増すこととなります。

また、全都道府県で最低賃金が1,016円を超えて引き上げられたことにより、年収106万円の壁も早期に撤廃の方向で検討・調整されるようになります。

うです。時給1,016円で週20時間働くこと、1年(52週)分の収入は106万円となるからです。



最低賃金(時給)の改定状況(令和7年度)

全国平均 1121円			秋田	青森	北海道										
			1031	1029	1075										
			山形	岩手											
			1032	1031											
長崎	佐賀	福岡	山口	島根	鳥取	京都	福井	石川	富山	新潟	宮城				
1031	1030	1057	1043	1033	1030	1122	1053	1054	1062	1050	1038				
				広島	岡山	兵庫	滋賀	長野	群馬	栃木	福島				
				1085	1047	1116	1080	1061	1063	1068	1033				
			愛媛	香川		大阪	奈良	岐阜	山梨	埼玉	茨城				
			1033	1036		1177	1051	1065	1052	1141	1074				
			高知	徳島		和歌山	三重	愛知	静岡	神奈川	東京	千葉			
			1023	1046		1045	1087	1140	1097	1225	1226	1140			
沖縄															
1023															

(注)熊本県よりも高い最低賃金の都道府県は茶色



webでも
ぜひご覧ください♪




「hug」ページ



JAグループ熊本
ホームページ

「食」と「農」の魅力を伝える“ココロとカラダを育む”マガジン。
vol.68 JA直売所の店頭ラックなどで無料配布中!



冬土用
未の日
MIDWINTER
DAY OF SHEEP

Instagram フォトコンテスト

応募期間 2025.11.01(土)~2026.02.12(木)

他にも優秀な作品には素敵な賞品をご用意しております。
詳しくは、熊本県青果物消費拡大協議会ホームページをご覧ください♪




家族を乗せて
走るから、安心は
三つ星を選ぶ。

もしものときの、頼れる保障。



お見積りは
こちら



くらしの保障、相談するなら



※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

25481050056

発行／熊本県農業者政治連盟
熊本市中区南十反畑町2-3 電話 096-333-0801-1284
編集責任者 中村 隆宏
●発行日／令和7年12月15日 毎月1回15日発行
●定価／一部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)(税別)

あつという間に今年も終わろうとしていきます。子どもの頃は、お正月を迎えるのが待ち遠しくて、わくわくしていました。美味しいおせち料理が食べられて、お年玉をもらうって、洋服も靴も新調して、一年で一番楽しみな時期でした。正月を迎えるにあたって、年末の大掃除はこの家庭でも家族総出で行っていたようです。昔の家は、和風建築で畳敷きの部屋が多く、部屋はふすまや障子で仕切られていました。この障子の張替えが子供の仕事でした。障子を破るのは楽しいのですが、枠からきれいにはがして、シッと張るのが難しかったですね。

大晦日には、紅白歌合戦を見て、年越しそばを食べて、眠いのを我慢して除夜の鐘が鳴のを待っていました。テレビでは「ゆめ年々」が11時45分から放送され、全国各地のお寺や神社で鐘を突く映像が流れていました。

現在の、お正月の悩みは、孫や甥・姪の子ども数が多くて、お年玉の準備に苦労しています。

「夜の水かけ」



撮影：大羽 くるみ 様

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

あ
と
が
き